

日刊 動労千葉

84. 1. 14

No. 1539

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電二九三五）六（公衆）〇四七二二七二〇七

闘う力総の組織を阻止改悪勤乗動

乗務員分科常任委員会開

59・2ダイ「改」交渉が山場をむかえた一月十二日、乗務員分科会は、第二回常任委員会を開催し、動乗勤改悪攻撃粉碎を中心とした当面する取り組みについて論議を深め、無協定下の闘いをも決意し、不退転の決意で断固闘うとの方針を決定した。

分科の総力をかけて闘う

西森会長が決意表明

会議は、冒頭西森会長が挨拶にたち、現在闘われている59・2ダイ改交渉の経過と問題点について提起し、さらに、「動乗勤『改訂』攻撃が今後国鉄における合理化攻撃の最大の闘いに突入する。この動乗勤改悪攻撃の本質は、敵・権力・国鉄当局が従来の協約・協定を改廃し、国鉄の全職員の勤務形態を抜本的に改悪することを目的とした攻撃である。

このような質をもった攻撃であるにもかかわらず、国鉄当局が国鉄労働運動の中核を担う動力車乗務員の勤務を強制的に改悪する攻撃に打ってでてきた意図は、この動乗勤改悪攻撃の強行突破をもって一挙的に国鉄労働運動を解体せんとする支配の側からの攻撃とみなければならない。従って、敵・権力・国鉄当局は、臨調・行革の方針のもとに、いま、まさに決戦を求めてきたのである。

である以上、われわれは、この攻撃を真向から受けとめ、組織の総力を挙げた闘いに決起しなければならぬ。そのため乗務員分科会は、この先頭に起って闘う」と決意が述べられた。

研修、討論で武装し、不退転の闘う体制へ

当面する取り組みを決定

続いて、安田事務長が、当面する取り組みについての提案を行った。安田事務長は、この闘いは「非常に厳しい闘いになることが想定されるが、敵の攻撃を知ることがなによりも重要である」と述べ、既に決定している学習会、研修講座の具体的取り組みについて大要次のとおり提起した。

- 一 1・19学習会の成功に向けて、動乗勤改悪攻撃の内容を全会員が熟知するため、講演を次の二議題で行う。
- (一) 動乗勤改悪攻撃の取り組みと国鉄内各労組の動向について、（講師・布施書記長）
- (二) 動乗勤改悪攻撃の問題点と動労千葉の要求、

特に、(二)については、乗務員分科会として初めての試みであるが、パネルディスカッション形式で行い、可能なかぎり理解しやすい方法で開催する。

2・10研修講座（労働法）の取り組みについて現在国鉄当局は、労働組合法第十五条（労働協約の期間）に基づき、動乗勤改悪攻撃を一方実施する姿勢を強めている状況にある。乗務員分科会は、この攻撃との闘いは、あらゆる可能性を追求し、あらゆる戦術を駆使し、労働者の誇りにかけて断固たる姿勢で闘い抜く決意を明らかにし、同時に、われわれ乗務員分科会の真価が問われている闘いでもある。従って、乗務員分科会は、中大教授・横井芳弘氏に「労働法の概念と協定破棄後の余後効果について」の講演を依頼し、快諾を得たので前記研修講座を開催する。

以上の提案に対し、種々討論を深め、動乗勤改悪攻撃粉碎の闘いに乗務員分科会が先頭にたつて闘う方針を満場一致決定した。

運転保安闘争をさらに強化しよう

さらに、乗務員分科会が通年闘争と位置付けけている運転保安確立の闘いは、昨年未実施した線路点検・危険箇所摘発全支部一斉行動を総括し、この運動の強化を図るため全支部に点検調査班を設置し、危険箇所の把握と改善箇所に対する追跡調査の完全を期することを合わせて決定した。

